

《参考図書を使って身近な理科学について調べる！！

参考図書 (reference book) とは…

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典、辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。

図書館では、これらの本は館内での利用のみとし、必要な時にいつでも調べられるようにしています。



『理科年表』

国立天文台編 丸善出版

405  
L1

大正 14 年創刊の科学データブックです。終戦前後を除き毎年、刊行されてきました。基本的な部門構成は創刊当時からほとんど変わりませんが、昭和 59 年版に生物部、平成 17 年版に環境部が新設されました。その他、暦部、天文部、気象部、物理/化学部、地学部、附録から構成されています。

信頼性を最優先し、基本データ、業績が認められたデータのみを記載しています。毎年のおもなデータや解説の改訂は巻頭で紹介しています。

附録には、第 1 回 (1901 年) から最近までの科学分野におけるノーベル賞受賞者と受賞理由、数学公式、三角関数表、慣用の計量単位などを収録しています。

1 冊で自然科学の分野を網羅した簡便な資料です。

『理科年表』で調べてみました ①

問 日本で一番大きな川は、なんという川ですか？

答 流域面積では、利根川 (とねがわ) 16,840k m<sup>2</sup>。長さ (幹川流路延長) では信濃川 (367 km)。「地学部」「地理」の項目にある「日本のおもな河川」(国土交通省水管理・国土保全局資料による) の一覧表で河川名 (ルビ付き) 観測地点などもわかります。 (【日本のおもな河川】)

『理科年表』で調べてみました ②

問 2016 年に日食はありますか？日本でみられますか？

答 3 月 9 日 (皆既日食) と 9 月 1 日 (金環日食) の 2 回あります。日本では 3 月に皆既日食が見られます。

「暦部」「日食」の項目では「食の始め」から「食の終り」までの「中央標準時」「経度」「緯度」といった状況なども記されています。 (平成 28 年版【惑星現象,日食】)

理科に関することなら『理科年表』におまかせ！！

～ 『理科年表』一冊でこんなことも調べることができます ～

- 暦部 「各地の日出入」全国主要地の1年間、10日毎の時間がわかります
  - 天文部 「天文学上のおもな発明発見と業績」筆頭がストーンヘンジ
  - 気象部 「日本のおもな気象災害」昭和27年以降の台風、大火、冷害、豪雨など
  - 物理学部 「科学上のおもな発明および発見」筆頭はデモクリトスの「原子論」
  - 地学部 「日本付近のおもな被害地震年代表」 「世界の～」もあります
  - 生物部 「年次別・性別人口・出征・死亡数（日本人）」1900年から5年毎
  - 環境部 「世界の年平均気温の偏差」温暖化を数字でとらえることができます
- ※ 「都道府県庁間の距離」や「おもな首都間の距離」などのデータもあります



『理科年表』まめ知識

南極観測隊が必ず持って行くものの一つがこの『理科年表』。観測のために最新のデータが必要で、観測船の出航に間に合わせるため、11月に発行されるようになったんだって。

(丸善出版 HP「理科年表エピソードより」)

天文や地学などそれぞれの分野に詳しい本もあります

『図説日本の河川』

小倉紀雄ほか編 朝倉書店 2010年 [5172=P0]

日本全国の52の河川について図版を交えて解説。巻末の付表「日本の主要河川の概要（流域面積順）」では幹川流路延長(km) 水源、河口または合流先などを一覧できます。巻末に索引付。

『天文年鑑』

天文年鑑編集委員会編 誠文堂新光社 [4405=K9]

その年に起こる天文現象と前年の観測結果などの情報を掲載。巻末の索引から調べたい事柄を探して該当本文をみるすることができます。例えば索引で「日食」を探すと「〇〇年のこよみ」と「日食と月食」(見出し)の二カ所に掲載があることがわかります。

調べてみよう！！

- 神戸の日の出・日の入の時刻は夏と冬ではどれぐらいちがうの？
- 「黄砂」って何？
- 日本からフランスまでの距離はどれくらい？



中央図書館3階の「参考図書コーナー」へ行ってみよう！調べものに役立ついろいろな分野の本が並んでいます。

理科学関係は、本の背に【420】～【460】のラベルが貼ってあります。ここで紹介されている参考図書から、まず調べてみましょう。場所がわからない人は図書館の人にきいてくださいね。